

平成を駆け抜ける大口町 平成21年(2009)～平成30年(2018)

住み続けたいまちを目指して

3回続いたシリーズの最終回。今月は、平成最後の10年を振り返ります。

2009年
平成
21年

- まちづくり基本条例施行
- 7代目町長に森進氏就任

● 旧北部中学校を増改築して

新大口北小学校開校

● 大口町消防団県消防操法大会小型ポンプの部で初優勝 全国消防操法大会で優良賞



- 衆院選で民主党が圧勝、鳩山民主政権発足
- 裁判員裁判がスタート
- 民主党のオバマ氏が大統領に就任
- 新型インフルエンザ発生、感染が世界各国に広がる
- マイケル・ジャクソンが死去

2010年
平成
22年

2011年
平成
23年

- 大口町社会福祉協議会が岩手県遠野市に支援活動拠点「絆つなぐネット」設置
- 「新しい地域自治組織による協働のまちづくり」提言



- 鳩山政権8カ月半で崩壊、菅内閣が発足
- 小惑星探査機「はやぶさ」地球に帰還
- バンクーバー冬季五輪、浅田真央選手が銀、高橋大輔選手は銅

- 東日本大震災が発生、福島第1原発で事故
- 野田政権が発足
- 円が戦後最高値、1ドル175円32銭
- 女子サッカーワールドカップ、なでしこジャパン世界1
- アップル社のスティーブ・ジョブズが死去

2012年
平成
24年

- 町制50周年
- 宮城県南三陸町に職員長期派遣
- 南小学校新校舎で開校



- 第2次安倍内閣発足
- 消費税率8%、10%と段階的引き上げの消費増税法成立
- 京都大IPS細胞研究所長の山中伸弥教授にノーベル賞
- ロンドン五輪で日本最多の38個のメダル獲得

町制50周年(平成24年)

町制施行50周年を迎えたこの年、1年をおとしてさまざまな記念事業が企画されました。

「記念事業は町民の皆さんとともに手作りで企画運営し、大口町の50年の足跡を後世に残すものにしてほしい」との当時の森町長の要望で、プロジェクトがスタートしました。

公募した18名の推進委員と役員で組織された推進委員会が、大口町のまちづくりのコンセプトである「協働」をテーマに、企画運営にまい進したのです。

特に印象に残った事業としては、4月1日の町制施行日に合わせて開催した『記念式典』と『HAPPYバースデー!おおぐち』が挙げられます。この事業のコンセプトは、「町民手作り・大口らしさ・みんなで祝う」です。式典は、中学生による吹奏楽の演奏、大口町伝統芸能の披露、町内ソプラノ歌手による君が代斉唱、初代町長の人物像に迫るVTRの放映(録画・編集・出演者は町内の皆さん)、「大口50thをコーラスで祝い隊♪」の合唱、すべて大口らしさを、町内の皆さんの手作りにこだわった内容でした。そして、町内の工作機械メーカー2社が、自社の技術力を生かしたオリジナルの記念品製作、包装作

2018年 平成 30年	2017年 平成 29年	2016年 平成 28年	2015年 平成 27年	2014年 平成 26年	2013年 平成 25年
<ul style="list-style-type: none"> ● 「多世代が集う憩い広場」着手 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大口町内の国道41号、6車線化工事着手 ● 北保育園竣工・子育て支援センター併設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 松江市災害時相互応援協定締結 ● サポートルーム「さくら」開設 ● 替地夢キャン広場竣工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 名古屋市長に鈴木雅博氏就任 ● 町内3地域で地域自治組織設立 ● 古代種の桜クローン技術で井吹く第七次総合計画まち・ひと・しごと創生戦略策定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 町立中保育園民営化 ● 生きがい支援センター竣工 ● さつきヶ丘防災センター竣工 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年の夏季五輪・パラリンピックが東京に決まる ● 富士山が世界遺産に登録 ● 田中将大投手が21連勝でプロ野球新記録を達成 ● 南アフリカ初の黒人大統領ネルソン・マンデラ氏死去 ● 御嶽山噴火、登山者を噴石が襲う ● 青色発光LEDで日本人3氏にノーベル賞 ● 消費税率が5%から8%に引き上げ ● 17歳のマハラ・ユスフザイさんにノーベル平和賞 ● 安全保障関連法が成立 ● 18歳以上に選挙権 ● シェット旅客機MRJの初飛行成功
					
<ul style="list-style-type: none"> ● 天皇陛下が退位意向 ● 熊本で2度の震度7 ● オバマ米大統領が広島を訪問 ● リオデジャネイロ五輪、日本が過去最多41個のメダル獲得 ● 三重県志摩市の賢島で伊勢志摩サミット開催 ● 共和党のトランプ氏が大統領に就任 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平昌五輪でフィギュア羽生結弦選手・女子ススピードスケート小平奈緒選手が金 ● 歌手の安室奈美恵さん引退 ● テニス・大坂なおみ選手全米オープン優勝 ● 全国で歴史的猛暑 ● 北海道で震度7、道内全域で停電 ● 西日本豪雨、死者220人超 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天皇陛下2019年4月末退位へ、特例法案が成立 ● 将棋人気、15歳の藤井聡太七段29連勝 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全保障関連法が成立 ● 18歳以上に選挙権 ● シェット旅客機MRJの初飛行成功 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全保障関連法が成立 ● 18歳以上に選挙権 ● シェット旅客機MRJの初飛行成功 	<ul style="list-style-type: none"> ● 安全保障関連法が成立 ● 18歳以上に選挙権 ● シェット旅客機MRJの初飛行成功

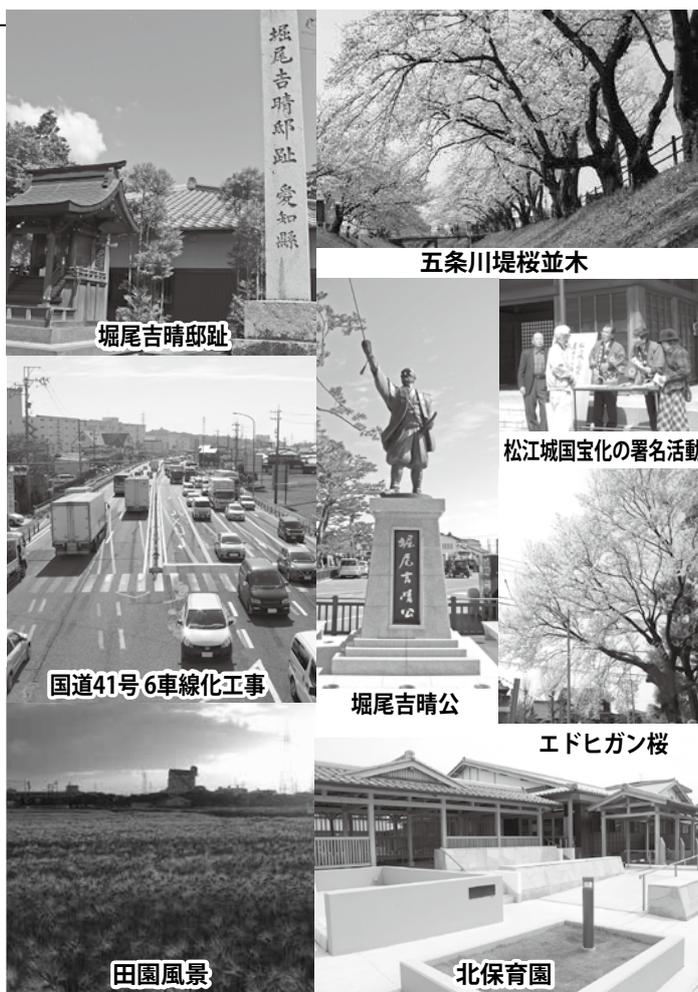
業は授産所が協力してくれました。役場周辺の駐車場で開催されたイベント「HAPPYバースデー！おおくち」は、一人でも多くの町民の皆さんと大口町の誕生日をお祝いしようとして、まちづくり団体との協働で開催しました。

「住民、団体、企業、行政などさまざまな主体がタッグを組んで作り上げたオープニング行事。協働による企画運営は容易ではありませんでしたが、大口町の個性が出せた思い出に残る行事となったと思います」と担当職員。

未来へつなぐ

現職で2期目の鈴木雅博町長は、公約のひとつにインフラ整備を掲げ「50年後の礎となるまちづくり」を目標に、生活基盤の整備を進めています。

平成26年より北保育園建替えの基本構想が整えられ、平成29年3月に竣工。木のぬくもりを生かした構造と、地下水熱を使った冷暖房や井戸など環境にやさしい設計の北保育園は、保育施設だけでなく、子育て支援センター、高齢者が集うふれあいサロン、またいざというときの防災センターとしての役割も兼ね備え、地域に根差した総合施設となっています。



また、平成29年大口町内の国道41号6車線化工事に着手。幹線道路の交通渋滞の緩和はもちろん、50年前に作られた交通網を、昨今迫りくる災害時にも物資を安全輸送できるように整備しています。

インフラ整備と同時に進めているのがまちの資源の掘り起こしです。植樹から60余年たった大口町の五条川堤の桜並木（ソメイヨシノ）が寿命を迎えていることをきっかけに、平成24年に立ち上がった「五条川水

と桜のプロシエクト」。平成27年には、町内2箇所に生息するエドヒガン桜（100年以上前から存在）が古来種であることが判明し、クローン技術によって培養し苗木を育てる計画が進んでいます。

また、平成27年に松江城天守が国宝に指定されたのを受け、その松江城を築城した戦国武将堀尾吉晴公の生誕地が大口町であるご縁で、同年大口町と松江市は姉妹都市提携をしました。それまでも、両市町の間で

は昭和33年に結成された「堀尾史蹟顕彰会」を中心として民間の交流が続けられ、「裁断橋物語」の普及活動や、松江市の堀尾吉晴公銅像建設、松江城国宝化の署名活動への協力などを地道に続けていました。約60年間にわたる地道な活動が実を結び、松江城の国宝化をきっかけに行政レベルでの姉妹都市提携調印式へとこぎつけ、翌平成28年には松江市災害時相互応援協定を締結しました。

先人たちが紡ぎ出した財産を現代に生きるわれわれが引き継ぎ、次世代に渡していく。今、求められているのは、未来を担うごもたちのために生活基盤を時代に沿ったものに整備していくと同時に、まちの宝を大切にする精神を伝えていくことです。それがまちの魅力へとつながり、まちの住みやすさにも発展していくことでしょう。

取材にて

平成を駆け抜ける中で粛々と続けられてきた住みやすいまちへの整備とまちの魅力の再発見。最後の10年はその

集大成といえるかもしれません。

現在大口町では、町内外にまちの魅力を知ってもらい、住み続けたいまちとして認識してもらえよう、「大口町プロモーション事業」を推進しています。住民のみならず行政が協働で知恵を出し合い、企業とも力を合わせてより魅力的なまちづくりを目指していけるよう、さまざまなアイデアの実現や発信をしています。

同事業が毎年「成人の集い」会場でおこなう、新成人に大口町の魅力を挙げてもらうアンケートでは、「美しい田園風景」「数々の歴史的史蹟」「都会に近い田舎」「住民同士の温かい交流」などが寄せられ、若い世代に大切なふるさととして愛されることが伺えます。

50年先も100年先も住み続けたいまちであるために。新元号のほごさまを迎え、私たち一人ひとりが住みよいまちのために何をすべきか、どうあるべきかをじっくり考え、地に足を着けて生活や環境を見直し、未来に向けて町民全員が輝けるよう、手を携えて歩んでいきたいですね。